



代表取締役社長  
梶川 勇次

## 地域の食のライフラインとして コロナ禍にも安全安心を提供します

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また、2020年から続く新型コロナウイルスの影響が長期にわたっており、懸命に働いておられるエッセンシャルワーカーの皆様に関心と感謝申し上げます。

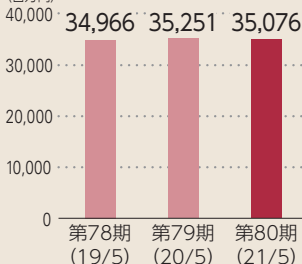
今期を振り返れば、当社もコロナの感染予防対策に追われた1年間でした。その中で、皆様の「食」を支えるライフラインとして、スーパーマーケットの社会的存在価値もさらに明確になりました。コロナ禍にも安全安心な商品提供のために業務にあたった全従業員にも感謝しています。今後も引き続き、社会的使命を果たし続けてまいります。

今期は、前半に再びコロナ第2波に見舞われ、テレワーク

### ■ 連結決算ハイライト

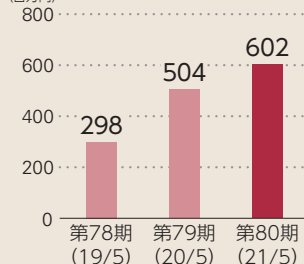
#### 営業収益

(百万円)



#### 営業利益

(百万円)



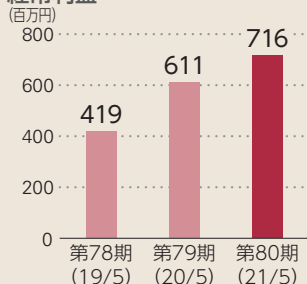
が進み、外食も自粛され内食化が進みました。ただ、長引く自粛生活の中、ご家庭で材料を購入しての手作り志向は少し下火になり、2年目は自炊疲れもあるのか簡便商品や総菜の売上げが伸びました。しかし、後半はコロナ特需の反動もあり、平年の売上げに落ち着きました。安城アンフォーレ店の閉店もあり結果的に減収となりました。

今期の業績(連結)は営業収益350億76百万円(前年同期比0.5%減)、営業利益は6億2百万円(同19.3%増)、経常利益は7億16百万円(同17.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は3億55百万円(同38.6%増)となりました。

社内的には、従業員の感染予防のためにZoomなどを利用したリモートワークが進みました。会議や社員の教育研修などをリモートに切り替えたことにより、遠方の店舗から時間をかけて来社する必要がなくなり、交通リスクも回避でき効率が上がりました。商品部では取引先との商談もリモートでできるようになり、出張も減り経費削減につながりました。このコロナ禍の意外な副産物は、第81期の基本方針のひとつである「働き方改革の推進と効率化」につながると期待がもてます。

長期化が予想されるwith/afterコロナ時代に、地域のお客様の食のライフラインとして、さらに責任感をもって商品をお届けしてまいります。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 経常利益



### 親会社株主に帰属する当期純利益

